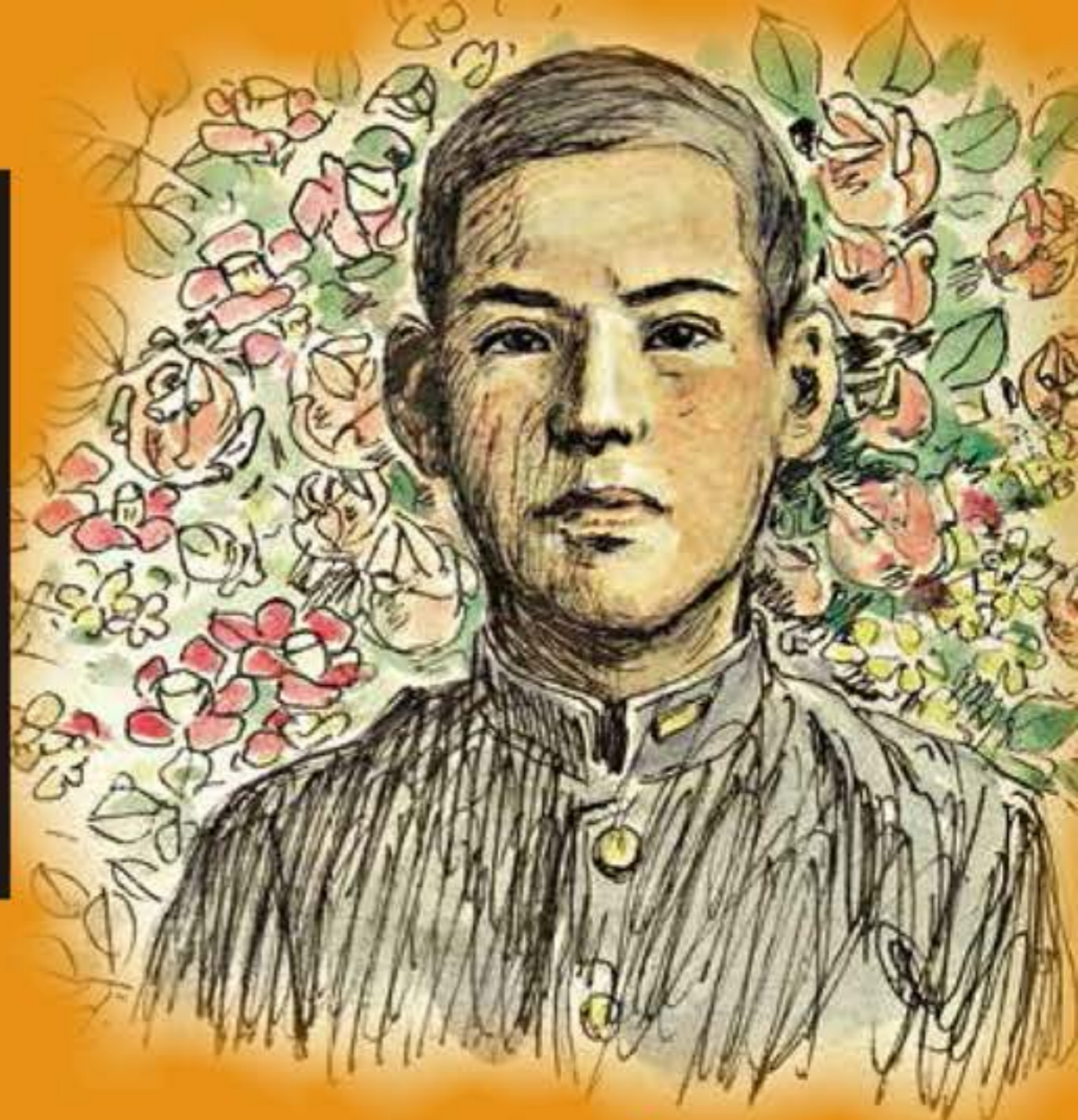


時を超えた 兄弟の対話



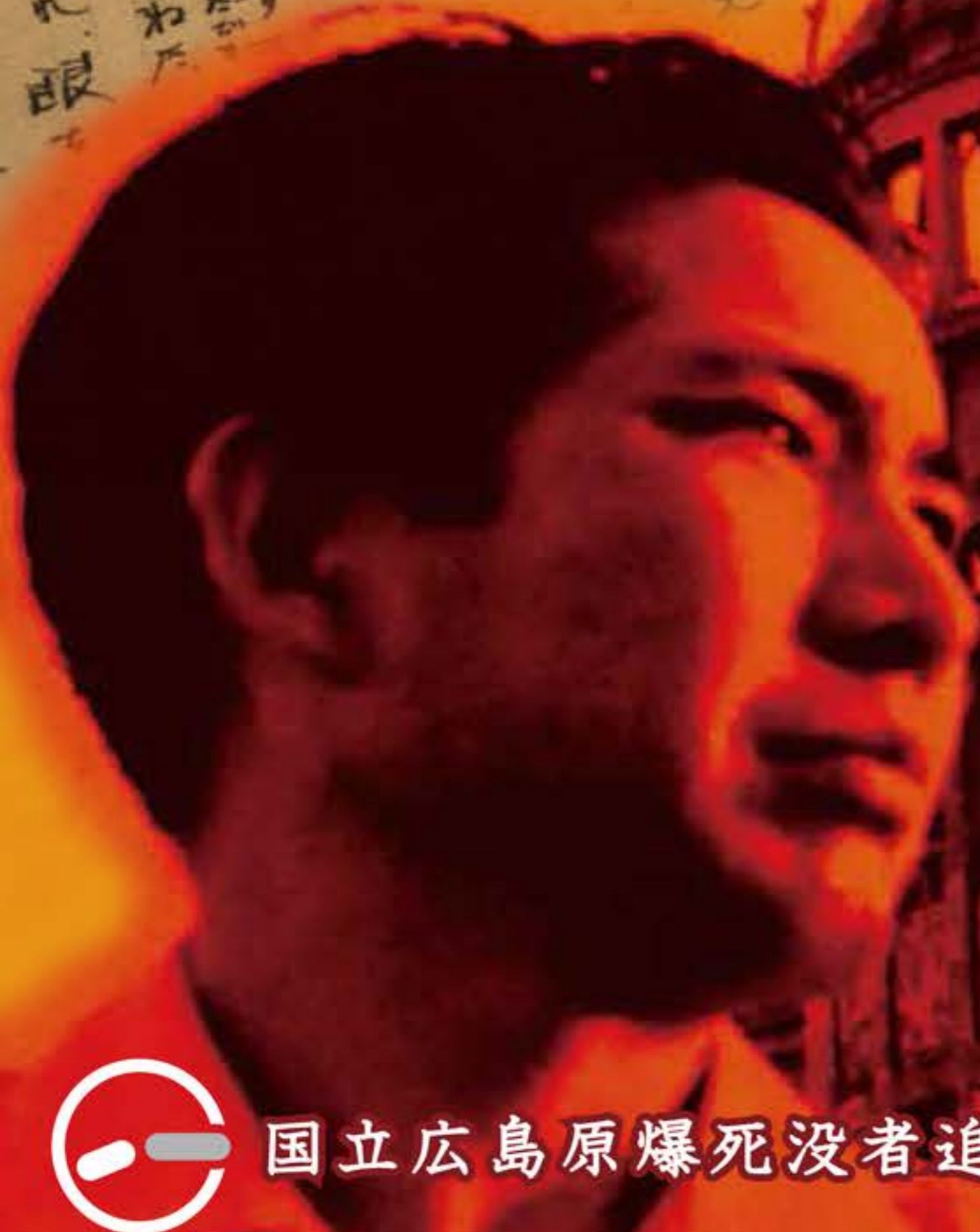
ヒロシマを描き続けた四國五郎と
死の床でつづった直登の日記

2020年1月1日(水) -

2021年2月28日(日)まで
開催期間 延長

八月六日 月曜日 晴天
広島 大空襲さるる

記憶せよ！



次回企画展のお知らせ
「わが命つきるとも
—神父たちのヒロシマと復活への道—」
2021年3月1日～2022年2月28日



時を超えた兄弟の対話

ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづった直登の日記

画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに全て捧げた四國五郎（1924-2014）。そのきっかけは、最愛の弟・直登（1927-1945）が原爆により18歳で短い生涯を閉じたことでした。

「死んだ人々に代わって絵を描こう。戦争反対・核兵器廃絶を。芸術になろうがなるまいが…」

弟の死が兄にこう決意させたのです。

この企画展では、被爆当日から亡くなるまで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の作品を紹介しながら、時を超えた二人の対話を再現します。



「愛弟四國直登像」 1948年



「自画像」 1967年

五郎と直登の略年譜

- 1924 五郎、四國家の三男として生まれる。
- 1927 直登、四國家の四男として生まれる。
- 1940 五郎、家計を支えるため広島陸軍被服支廠に就職。美術学校入学を断念。
- 1944 日本軍の玉砕が続く中、五郎が満州へ出征。
- 1945 直登、被爆し亡くなる。享年18歳。
- 1945 終戦。五郎はシベリアへ抑留される。
- 1948 五郎、復員し直登の死を知る。
- 1949 五郎、峠三吉の「われらの詩の会」に参加。詩と絵による反戦・反核運動を推進。
- 1974 五郎、NHKの「市民の手で原爆の絵を」プロジェクトへ全面協力する。
- 2014 五郎、広島で亡くなる。享年89歳。



「署名」 1962年



「写生する兄弟」 1996年

これからの人生で方向を見失いかけた時は、
これを読み返せ、五郎よ！直登の日記を読みめ！



広島駅（南口）から約20分
市内電車：宮島口、江波行き「原爆ドーム前」下車
紙屋町経由広島港行き「本通」下車
バス：広島バス吉島方面行き「本通り」下車
※ 駐車場はありません



「ヴェトナムの母子」 1964年



「弟への鎮魂歌」 1971年

講演会や屋外イベント等の開催を予定しています。
詳細は、当館ホームページに掲載します。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

TEL：082-543-6271 FAX：082-543-6273
ホームページ URL：https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/
〒730-0811 広島市中区中島町1-6
開館時間：12月-2月：8:30-17:00 3月-7月：8:30-18:00
8月：8:30-19:00 (8/5, 8/6：8:30-20:00)
9月-11月：8:30-18:00
休館日 12月30日、31日



あの時を忘れない
Never forget